

## 第5学年特別活動学習指導案（保健指導）

指導学級 宮古市立千徳小学校

5年3組 男 14名女 14名計 28名

指導者 T1 堤 絹子

T2 北田 智和

指導場所 5年3組教室

### 研修テーマ 心身の健康な成長のため望ましい行動の選択ができる児童の育成

変化が激しく、様々な情報が氾濫する中で子どもたちが、生涯、心身ともに健康に生きていくためには、自らの健康の大切さを認識し、情報を判断し生活行動を選択していく力が必要と考え、このテーマを設定した。

これまでの保健指導では、飲酒・喫煙・薬物乱用の成長期の心身への影響をわかりやすく伝えること、身近な問題として考えさせること、これからの行動選択につなげる意欲をもたせることを大切にしてきた。

1 題材名 飲酒と健康 ～なぜ、子どもはお酒を飲んではいけないの？～

2 題材について

(1) 児童について

児童は第4学年の特別活動（保健指導）において、禁煙教育を受けている。素直で思いやりのある児童が多く、「たばこの害について学習する前は、大人になったら吸ってみたいと思っていたが、授業後は自分も吸いたくないし、家族の健康が心配なので、学習内容を教えてあげたい」という感想をもつ児童も多くいた。

飲酒についてアンケート調査を実施したところ、お酒を口にしたことがあると答えた児童は50%であった。どんな時に飲んだかという問いには「ジュース等と間違えて」「家族に勧められて」「興味があって」という回答があり、児童の身近なところにお酒が置いてあったり、安易に大人が勧める環境になっていたりすることがわかった。

飲酒の害の認識については、「体に害があると思う」と答えた児童は89%であった。飲酒を勧められた時、「断わる」という回答は68%、「断われない、わからない」という答えが32%であった。

このことから、害があるという認識は漠然とあるものの十分な理解はしておらず、どのような行動をすべきかを考えるまでには至っていないことがわかる。

そこで、児童が飲酒に対して望ましい行動選択をするためには、飲酒に関する知識と誘われたときに自分の意志を伝える方法を身に付けさせることが必要と思われる。

(2) 題材について

未成年者の飲酒は心身への害が大きく、法律で禁止されている。しかし、現実には十代の飲酒は増加傾向にある。その原因として社会や家庭が未成年者の飲酒に対して寛容なこと、お酒が自宅の手に届くところにあること、コンビニやスーパーマーケットなどの手に入りやすい環境が多くなっていること、興味関心をそそるCMやジュースと間違えそうなパッケージでアルコールに関心を引くことなど、多くの要因が挙げられる。

そうした要因が多くある中で、小学校高学年は二次性徴が始まり、心身ともに大きく成長する大事な時期を迎える。大人への憧れや好奇心が強くなる時期であるだけに、

ますます飲酒への興味も高まることが予想される。

そのような時期だからこそ、飲酒の健康への影響を学習し、健康に成長するために望ましい行動選択をする力を育てたいと考え、この題材を設定した。

### (3) 指導について

児童は体育科の保健領域の学習においても喫煙・飲酒・薬物の害について学習する。しかし、喫煙・飲酒・薬物乱用は特に児童の健康な成長と将来にわたる心身の健康に影響があると考え、特別活動の保健指導でも取り上げ、「4年—たばこの害」「5年—飲酒の害」「6年—薬物乱用防止」と、児童の発達段階に応じて指導方法を変えながら学習の機会を設定している。

そこで、「心身の健康な成長のため、望ましい行動選択ができる」ことが大切と考え、以下の段階で指導する。

- ① アンケート結果を基に飲酒に誘われる機会が身近にあることを知らせ、飲酒と健康についての学習の必要性に気付かせる。
- ② 写真や図など視覚的資料を活用し、飲酒による心身への影響を十分に理解させる。
- ③ 誰に勧められても、断られるようにロールプレイングの演習を通して、意志の伝え方を身に付けさせる。

## 3 指導計画

	活動内容
事前；帰りの会	飲酒に関するアンケートにより、日常の飲酒に対する環境に目を向けさせる。
本時	未成年者の飲酒による体への害を知り、飲酒を勧められたときの対応の仕方の演習をする。
事後：帰りの会	家族に本時の学習内容を説明し、未成年者の飲酒に関する自分の感想を伝える。

## 4 本時の指導

### (1) 目標

- ・ 飲酒と自分のこれからの生活について考えを持つとする。 (関心・意欲・態度)
- ・ 飲酒をすすめられた時のことわり方を見つけている。(思考・判断)
- ・ 未成年者の飲酒の害について理解する。 (知識・理解)

### (2) 本時の目標を達成するための手立て

- ・ 視覚的教材を使用し、飲酒による影響をわかりやすくする。
- ・ 学習した内容を基にした意志の伝え方の演習を行う。

(3) 展開 (太字ゴシック体は手立てにかかわる部分)

段階	学習内容 (○発問)	指導上の留意点	資料
気づく 5分	<p>1 課題を把握する</p> <p>○お酒を飲んだことがある人はどういうきっかけで飲んだのでしょうか。</p> <p><b>なぜ、子どもはお酒を飲んではいけないのか考えよう</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳未満の飲酒が禁じられていても、飲酒する機会があるという実態から本時のめあてをとらえさせる。</li> </ul>	アンケートの結果
考える 33分	<p>2 飲酒による体の変化を知る</p> <p>○大人がお酒を飲むと、どんな変化があるか考えてみましょう。</p> <p>○お酒を毎日のように飲み続けたことで脳はどのように変化しましたか。</p> <p>3 20歳未満の飲酒が禁じられている理由について考える。</p> <p>○なぜ、子どもはお酒を飲んではいけないのでしょうか</p> <p>○未成年の飲酒についてどう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒後、脳にアルコールが巡り、働きが鈍るため、普段と違う言動が見られることを説明する。</li> <li>・健康な脳と多量の飲酒を続けている脳の写真を提示し、違いに目を向けさせる。</li> <li>・大人の変化を基に子どもが飲酒してはいけない理由を予想させる。</li> <li>・<b>VTRを視聴させる際に、未成年者の飲酒の危険について気付いたことをメモさせる。</b></li> <li>・<b>VTRで述べられている飲酒の害3点を確認する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①脳への影響が大きいこと</li> <li>②命の危険を伴う急性アルコール中毒になりやすいこと</li> <li>③アルコール依存症になりやすいこと</li> </ul> </li> <li>・子どもは大人よりも飲酒の影響を大きく受けることに気付かせる。</li> <li>・未成年者の飲酒禁止法が児童の心身を守るためにあることに気付かせる。</li> <li>・未成年の飲酒の危険性を確認させる。</li> </ul>	<p>お酒の体への作用についての図</p> <p>脳の写真</p> <p>VTR 「未成年とアルコールの害」</p>

	<p>4 飲酒をすすめられた時の断り方を練習する</p> <p>○飲酒をすすめられた時、なんと断りますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を生かした断り方を学習シートに記入させる。</li> <li>・班ごとに発表し合う。</li> <li>・担任がお酒を勧すすめる役になり、3人程度演習させ、発表内容から断り方を整理させる。</li> </ul>	学習シート
意欲をもつ 7分	<p>5 本時のまとめをする</p> <p>○学習をふり返って、感想を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習して分かったことと、これからどんなことに気を付けたいかを学習シートに記入させる。</li> </ul>	学習シート

(4) 具体の評価規準

観点	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
関・意・態	飲酒とこれからの生活について自ら進んで考えようとしている。	飲酒とこれからの生活について考えようとしている。	板書で、飲酒がいけない理由を示し、今後どうしたらいいのかを考えさせる。
思・判	飲酒をすすめられた時の断り方について学習内容を生かした断り方を見つけている。	飲酒をすすめられた時の断り方を見つけている。	板書にある未成年の飲酒の害から断り方を考えさせる。
知・理	未成年の飲酒の害について正確に理解している。	未成年の飲酒の害について理解している。	板書を基に未成年者の飲酒がいけない理由を記入させる。

(5) 板書計画

